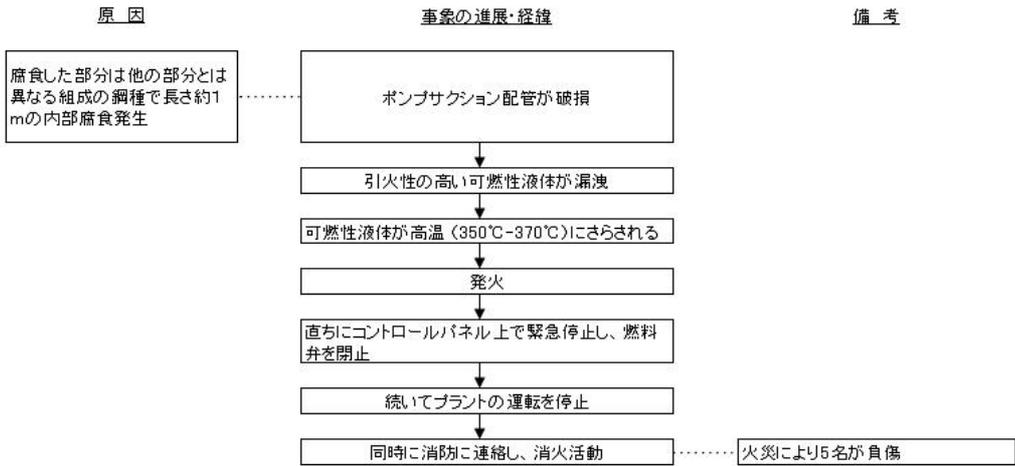




# ポンプサクション配管のコーロージョンによる漏洩・火災

## 事象進展図

00397	ポンプサクション配管のコーロージョンによる漏洩・火災
発災年月日	1993年9月24日
装置	プラントのポンプサクション配管
運転状況	プラント運転中
特徴	配管材料取り違えにより内部腐食を起こし、可燃性液体が漏洩し、火災



再発防止策
記述なし
安全専門家コメント
<p>コーロージョンであるが原因物質が何であるか記述されていないが、水存在下のクロロイオンによる腐食であると思われる。一般に全面腐食なら兆候はある筈であるが、この場所で腐食が起こると想定していなければ定点測定が出来ず減肉傾向は把握できない。当該事故は恐らく想定していなかった場所であろう。</p> <p>製油所で取り扱われる石油製品の発火点は200-400℃の範囲にある。引火点と異なり、断熱材などこしみこんだ蓄熱状態やさびなど不純物の存在によりその温度は低下する。石油製品の発火温度は一般的に、引火点の低いガソリンでは高く、引火点が高い重油などでは低い傾向にある。</p>

引き金事象発生の原因
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプサクション配管の材料取り違え</li> <li>・腐食発生</li> </ul>

事故の引き金事象
配管の開口による可燃性液体の漏洩

事故に関係した直接・間接要因
《工事・施工要因》 ・材料取り違え 《保守・点検要因》 ・点検・検査不良



## ポンプサクション配管のコロージョンによる漏洩・火災

添付資料・参考文献・キーワード

参考資料（文献など）

MARS Database

▶ 添付資料

▶ キーワード(> 同義語)

🔑 配管 > パイプ

🔑 腐食 > コロージョン

🔑 材質確認

▶ 関連情報